

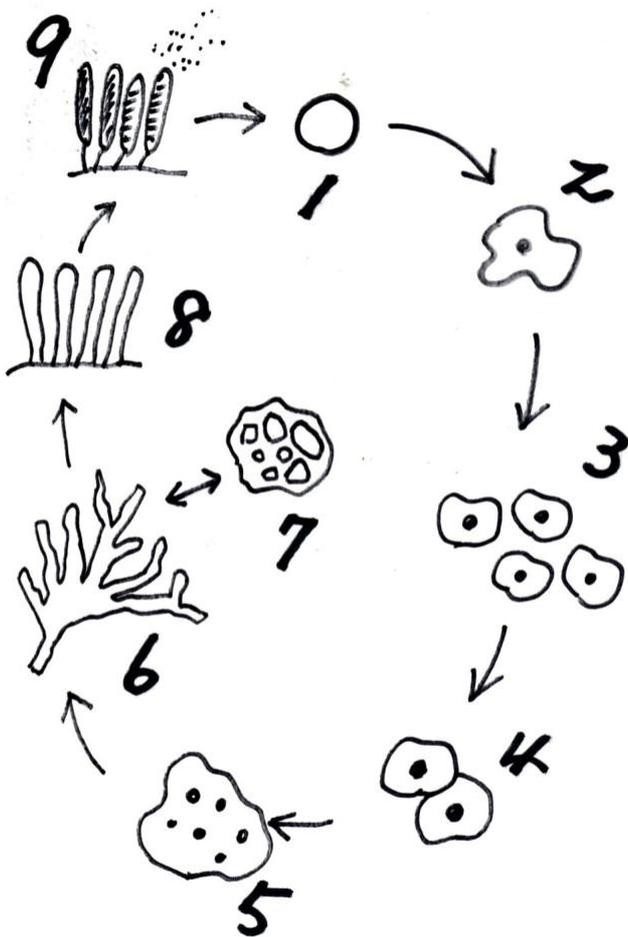
「変形菌の世界(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

変形菌の仲間は、分類上は「変形菌亜綱」に属する生物をさす。「変形体(栄養体)」と呼ばれる状態のものが、あちこち移動しながら食物を摂取する。この様子から「変形菌」と呼ばれるが、まるで動物のようなふるまいをする。しかし一方で、小型のキノコのような子実体を形成し、胞子を飛ばすという植物(或いは菌類)のようなふるまいもする。要するに「非常に変な生き物」である。



まずは、変形菌の生活史を簡単に「学習」しておこう。ものすごい略図である。

- 1) 胞子；水分などの条件が揃うと発芽する。
- 2) 粘菌アメーバ；単核単細胞の状態で微生物(バクテリアなど)を食べて成長する。
- 3) 分裂；どんどん分裂して増える。
- 4) 接合；単核単細胞には「オス」と「メス」のよう

なものがある、それが接合する。

5) 多核体；一つの細胞の中にたくさんの核があるアメーバ状の変形体になる。

6) 樹枝状変形体；多くの変形菌は、樹枝状に成長する。細胞は分裂せず、たくさんの核だけが分裂する。中ではすごい速さで「原形質流動」が起きている。

7) 休眠体；気温や湿度が低下し「だめだこりゃ！次いってみよう！」と感じると「菌核」という状態になり、しばらく休むこともある。

8) 子実体の形成；気温、湿度、適当な場所の条件が合うと、胞子を作るために「子実体」を作る。ほとんどの場合、この段階でやっと種名が同定できるようになる。

9) 成熟した子実体；胞子を飛ばす。塊状、棒状、球形、角状など、さまざまな子実体があり、それが変形菌の魅力になっている。

この「生活史(生活環)」を見ただけでも、いかに変な…つまり「面白い生物」かがわかる。



変形菌とはこの森で「再会」を果たした。変形菌たちにとって、いかにも居心地が良さそうな森である。



いた！(「あった！」ではなく「いた！)」これはまちがいなく「移動中の樹枝状変形体」である。